

# 〈ひばりテラス118〉

HIBARI TERRACE 118

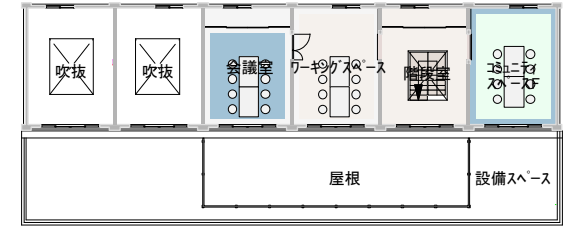
所在地：東京都西東京市ひばりが丘3丁目  
 建物用途：コミュニティセンター、カフェ  
 主体構造：鉄筋コンクリート 改修  
 改修部床面積：351.81㎡(106.42坪)  
 設計期間：2014.11～2015.04  
 工事期間：2015.04～2015.11

ひばりが丘団地のテラスハウスであった118号棟を改修したコミュニティセンター。  
 ひばりが丘団地再生事業により周囲の団地は新たに生まれ変わっています。  
 ひばりが丘団地は昭和30年代に日本初のマンモス団地として建設されました。  
 ひばりテラス118はその歴史を継承すると共に、地域の拠点となっています。



1階平面図 1/350

1階はコミュニティセンターとカフェ、2階はすべてコミュニティセンターとなっている。コミュニティセンターは居住エリアによらず、様々な方たちが立ち寄りやすいよう出入口を複数設置した。大小6つのコミュニティスペースは団体だけではなく、個人で仕事や趣味としても利用できるようになっている。  
 各スパンを横断する動線は耐震性を考慮し、位置が決められた。また、カフェ部分の2階スラブは既存の開口を広げ吹抜けとし、カフェの明るさ・開放感の創出を図った。



2階平面図 1/350



外観



カフェ(テーブル)



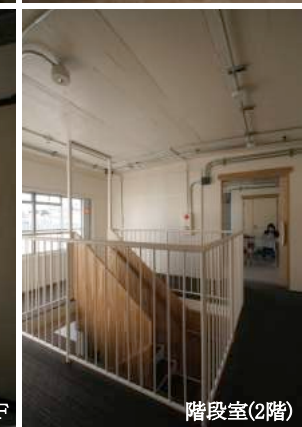
カフェ(テーブル)



メインエントランス

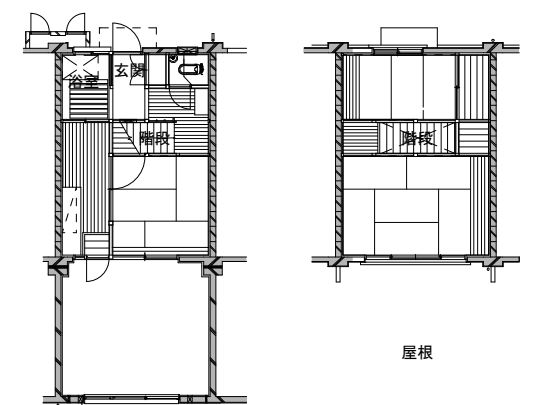


コミュニティスペースF



階段室(2階)

ひばりが丘団地のテラスハウスの雰囲気を感じられるようなインテリアとした。当時のスケール感や、壁の状態などを極力残した。  
 例えば、コミュニティスペースの壁についてはシーラー塗りまでとして、既存壁の状態を感じられるように、2階の天井については建設当時の型枠の状態が見られるようになっている。  
 サッシは基本的には既存のままの状態のため、今では珍しい引き違い窓に小窓が設置されている。  
 外観についても既存の色調を踏襲しながらテラスハウスの雰囲気が残るようにし、近隣との調和も図れるものとした。既存の状態は躯体の劣化も多く見られたため、その補修も適宜行っている。



既存1階平面図 1/200

既存2階平面図 1/200



外観(改修前)



内観(改修前)

既存テラスハウスはRC躯体に木造で内装が造られ、団地独特のスケール感を持っていた。